

# 公孫樹

2022年3月発行

第122号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726

## 陽性反応のため自粛していました

一月号と二月号を合わせて配布していただくことになってしまいました。二月号で書かせていただいたことは、住職は、健康な体をとりもどすために火曜日と金曜日は大阪の八尾市まで治療に通う…、その訳は…。という記事になっています。二月号と合わせてお読みいただければ幸いです。

二月、郵送分以外は「公孫樹」をお届けすることができませんでした。八度五分の熱が出て、体の節々が突っ張り、痛みを感じるの、自らコロナ検査をしたところ陽性反応が出ました。急遽三十一日の五役会議を中止し、この間に作成していた二月号「公孫樹」の配布を延期。三月号と合わせての配布に…と決めさせていただきました。「公孫樹が届いていない…との連絡をいただいた方には、事情をお伝えしてきましたが、ほとんどのみなさんには、今回二月・三月号と一緒に配布され、はじめてお判りいただけることになったと思います。いろいろとご迷惑・ご心配をおかけしました。お詫び申し上げます。

一月二十七日の東京立川市での「横井久美子追悼コンサート」に参加した帰りの新幹線で感染してしまつたと考えています。持って行ったおにぎりとお茶で食事をとりました。トイレ後の手洗いが不十分だったのでないかと…。コンサート会場では三時間。オンライン参加が中心で、参加者は密を避け、徹底した感染予防対策が実施されていました。横井さんは、ベトナム支援・ネパール支援で大変お世話になってきた方ですから、参加したかったです。

私は陽性確認後、自粛生活を行い、二月十二日に、陰性の判定をいただきました。

一月二十八日の夜から感じるようになった熱と痛みなどの症状。熱は一晚で下がりましたが、印象としては「ちょっとした風邪」という感じです。この間ずっと公孫樹を書いていたのですから。

この経験から思うのですが、コロナにかかったかな…と思つたら、自分で検査して、陽性反応がでたら、自粛する。再検査で陰性になれば大丈夫…という対応を、各人がしていくこと。それによつてコロナ禍は終息に向かう…というのが今回の教訓です。

誰でもが、いつでもどこでも、無料で、必要な際に自分で検査ができるように条件整備をすることが政府や自治体の役割ではないか…と思います。

## Trouble maker (迷惑屋さん)



西里定一 作

# 3月の行事予定



2日(水)	写経	午前10時～
9日(水)	念仏会	中止させていただきます。
16日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後1時～ 参加費500円 午後7時～
21日(月)	春彼岸法要	午前10時～
23日(水)	読経会	中止させていただきます。
25日(金)	戦没者慰霊	中止させていただきます。
10日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1000円
25日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 子ども 無料 大人 500円

## 慶蔵院豆知識

(19)



「因果の道理」といいます。お釈迦様によれば、因果報。つまり「因」(原因)、「縁」(条件)、「果」(結果)、「報」(影響)によって、すべての物事は成り立っている…。すべてのものはつながりあっているということです。

罪業も功德も自分が作り出したものと自覚して、因果報。すべての人が幸せであることを願い、心がけて生きていくことによって、物事は常に良い方向へ、良い方向へと動いていくのが道理と、お釈迦様は教えてくださいます。

僧侶がよく用いる祈りの言葉、「諸縁吉祥」も同じことです。自分にとって良いことも悪いことも、全部をあるがままに受け入れて、常に自らを省みて生きてさえいれば、幸せはいつもそこにあるということです。

住職が大きく体調を崩すこととなり、皆様には大変ご心配をおかけしております。誠に申し訳ございません。「因果の道理」「因果報」。何を以てこのようになってしまったのか、何がいけなかったのかなどと、過去を振り返り悩むのではなく、良いことも悪いことも、すべてがいただいだいたご縁。「諸縁吉祥」と元気に健康回復に向かって、前に進んでほしいものと願っております。

(栄子)



# 浄土宗新聞を無料で お渡しします！！

3月号読みどころ

4 ページ… 六代目三遊亭円楽師匠が登場

## 信心とは 感謝報恩

「笑点」でおなじみの楽太郎さんは、2010年に六代目円楽を襲名、2016年に出家しました。それはなぜ…。「なすがままに流れつき、何かの縁に導かれ…」と語っていますが、五代目円楽の祥月命日にはお墓参りをかかさないと話しています。五代目円楽師匠の実家は、浄土宗のお寺。そんなご縁がかさなって出家となったようです。

朝のお勤めをつづけ、お経を唱えることが当たり前になることを願い、手を合わせて自分に向き合う気持ちが仏教の根本といえます。

また宗教心は、自分を律し、人に対して何ができるか…という気持ちを持たせてくれるものと語ります。そして落語会発展のために、命のある限りコーディネーター、プロデューサーとして活動していきたいと話しています。

- ① 2月に予定していた子ども会は、4月10日の「花まつり」と一緒に行います。「どむならん」人形劇団の公演です。公演は11時からとなります。
- ② 「辻説法」は、3月2日の500回をもちまして終了させていただきます。
- ③ 夜の行事の内、念仏会、読経会、映画会は2月をもって終了させていただきます。
- ④ 朝の勤行、寺参りは火曜日と金曜日はありません。八尾市に施療に出かけています。他の曜日は、今までどおり朝6時から行います。ご自由にお詣りください。
- ⑤ 春彼岸のお塔婆の申し込みは3月7日をめどにお願いします。それ以降は慶蔵院までお持ちください。  
火曜日・金曜日は玄関右横のポストに入れていただいても結構です。



住職の健康回復への道のり (二)

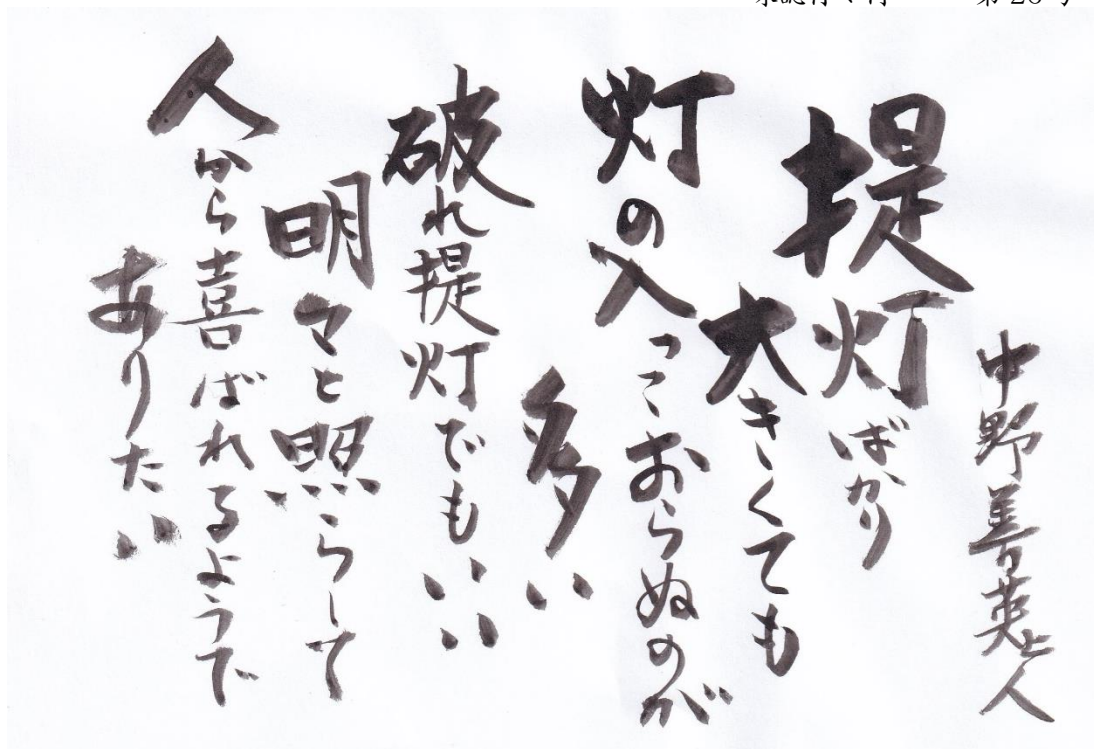
火曜日と金曜日には八尾市のクリニックにて健康回復の施療を受けています。午前と午後の二回、受診しています。一時から四時までの三時間は個室にてゆっくりと休ませていただいています。

受付のところに、「当クリニックはこのような方をうけいれています」と、表示されておりました。

- ① 難病の方、現代医学で治療法のない方
- ② 病気で治療を受けているがよくなるらない方
- ③ 検査結果に異常はないが、体に異常を感じている方
- ④ 検査結果に異常はなく、本人も異常を感じないが、体は異常をあらわしている方
- ⑤ 再発予防や健康管理の方

こうして書き上げてみて、メモが正確ではなかったかな…と感じる箇所もありますが、概ねこのような患者を受け入れてくれているクリニックです。病院での施療だけでなく、生活全体の管理と改善を指導していただいています。二月末からは四つの種類の体操を一日五セット実施して記録をつけています。例えば、手のひらから指先までを、空いている手で挟んで押ししたり、足の指も同様に…。体の回復を願って、続けます。





横井久美子さんは、全国各地を回り、三十人から五十人規模の「春秋楽座」で歌うとき、マイクを使わなかった。コンサート前には、食事もほとんど食べず、発声練習に余念がなかった。

二〇一一年のネパール、サチコール村でのコンサートを経て、看板を「嬸（おうな）ざかり」と変更した頃だったと思う。持ち運びのできるアンプとマイクで歌うことを決断した。発声法が全く違うことになる。「いいボイストレーナーにつくことができた」と、さらに歌うことへの意欲を燃やし、精進努力を惜しまなかった。

三月二日、私の辻説法は五百回目となる。二〇一一年四月から続けてきたものだ。ここ半年、声が通りにくくなってきていた。横井さんを思い出し、軽くて性能の良い乾電池で働くマイクを購入することにした。

「てらこや塾」卒業生のH君。名古屋のビックカメラのオーディオ部門担当。就職二年目にもかかわらず、昨年の全国売り上げベストテンに選ばれている。「そうだ…」彼に相談しよう…。

一月四日、H君が選んでくれたベルトの腰につけて使う、マイク・スピーカーを買った。これが、今、重宝している。辻説法ばかりか本堂の法事や法話の際にも利用させてもらっている。提灯に灯が入ったような気持ちだ。

ラジオはロシアのウクライナーの侵攻を伝えている。市街戦もあちらこちらで起きている。

横井久美子は歌った。

「歌は私に教えてくれた。この世にどれほどの悲しみと痛みがあるのかを…、たとえ世界が闇につつまれ、争いが地上を覆っていても…歌は私に教えてくれた。人間が積み上げた英知を、人生の深さを…。歌にありがとう。あなたにありがとう。」

横井はよく言っていた。「自分で作った歌だけど、この歌をもっと上手に歌えるようにしたい…」と。横井の歌声よ、ウクライナに届け…。